



ユニバーサルの駅「ひなたぼっこ」とは

特定非営利活動法人 明石障がい者地域生活ケアネットワーク（略称：135E ネット）では、ユニバーサルの駅「ひなたぼっこ」を、ユニバーサル社会を実感できるとともに、ユニバーサル社会づくりをわかりやすく伝える場所として2011年 明石駅前にオープンしました。

ユニバーサル社会とは、年齢、性別、障がい、文化のちがいににかかわらず、だれもが地域社会の一員として支えあうなかで、安心して暮らすことができ、一人ひとりが能力を発揮して元気に活動できる社会のことです。

当時のユニバーサルの駅「ひなたぼっこ」では、ユニバーサル社会づくりの推進を図ることを目的とし、地域の明石商業高校や明石高専の学生を交え、ロゴや看板、シャッター壁画、パンフレット等の作成を行っていました。

残念ながら2017年に拠点としての役割は終了し閉鎖となりましたが、当時から続く思いや課題を引き継ぎ、135E ネットに所属する障がい当事者や障がい児者支援スタッフで構成されたコアメンバーを中心として、新しく2017年度より明石のユニバーサル社会作りを推進していく活動に取り組み始めています。現在は、市民の方々に向けた啓発活動や情報誌の発行などを通し、明石のユニバーサル作りの推進活動を行っています。



毎月1回、コアメンバー会議を実施

「ひなたぼっこ」という名前には、太陽の陽だまりに包まれ、あたたかな心でおもてなしの出来る空間づくりを目指すという意味が込められています。

理念

誰もが安心して暮らすことが出来るユニバーサル社会を目指し障害当事者、福祉・学校関係者等すべての人々がコミュニケーションを取り合い、一人ひとりが持てる力を発揮できるように、地域社会貢献に努め、啓発活動に取り組んでいくグループとして明石市内を中心に行動します。

スローガン

「出会って!」「つながって!」「広がって!」

ユニバーサルの駅「ひなたぼっこ」リーダー あいさつ

ユニバーサルデザインは、1985年にアメリカのロナルド・メイス氏（通称：ロン・メイス）によって、提唱した概念とされ、「できるだけ多くの人々が利用可能であるようなデザインにすること」をコンセプトの基本とされています。（引用：<https://ja.wikipedia.org/wiki/ユニバーサルデザイン>）

ひなたぼっこでは、「出会って、つながって、広がって」をスローガンに、明石市の利用しやすいお店や町の仕組みの情報発信と改善の提案、そして人の心と心が、相互に理解を深め、助け合い、つながり合い、学び合い、明石で誰もが安心して暮らせて、楽しめる街の仕組みを発信していくことを目標にしています。

リーダー 社会福祉法人三田谷治療教育院 理事長 飯塚 由美子



ユニバーサルの駅「ひなたぼっこ」の活動について

やさしいまち明石の実現にむけて～ユニバーサル社会の構築～

明石障がい者地域生活ケアネットワークは、年齢、性別、能力などにかかわらず、だれもが地域社会の一員として支え合うなかですべての人が安心して暮らすことができ、また、その持てる能力を最大限に発揮して、元気に活動できるユニバーサル社会の実現にむけて、以下の取組みを行なっています。

- ①地域の方との交流の機会づくり
- ②ユニバーサル啓発講演会の実施
- ③合理的配慮の提供を支援する公的助成制度の普及
- ④ユニバーサル情報誌・広報誌「ひなたぼっこ」の発行
- ⑤明石市のユニバーサルデザイン情報を配信するホームページ「ひなたぼっこ」の運用



ユニバーサルイベント「点字ブロック体験」



ユニバーサル情報誌「ひなたぼっこ」